

ONE ART Taipei 2022

実行理事・王瑞棋 インタビュー

1月14日～16日、台北西華飯店にてホテル型アートフェアONE ART Taipei 2022 藝術台北（以下：OAT 2022）が開催された。出展画廊は55軒（そのうち海外12軒）、日本からはTEZUKAYAMA GALLERY、四季彩舎、石川画廊、gallery UG、ホワイトストーンギャラリー、TOMOHKO YOSHINO GALLERY、秋華洞が参加した。OAT 2022 実行理事であるAKI GALLERY創立者・王瑞棋にインタビューした。



左から：ONE ART Taipei 藝術台北理事・陳世彬、実行理事・王瑞棋、理事・劉忠河
©ONE ART Taipei 2022



台湾のインスタグラム美術館「快閃美術館」ポップアップで展示された土屋仁応作品 ©ONE ART Taipei 2022



gallery UGの展示風景 ©ONE ART Taipei 2022



石川画廊の展示風景 ©ONE ART Taipei 2022



TEZUKAYAMA GALLERYの展示風景
©ONE ART Taipei 2022

—— 今回のOAT 2022の特徴を教えてください。

王 コロナウイルス感染者が増加傾向にあるなかで、3日間での総売上高は1,000万台湾ドル（約4,100万円）になりました。アートフェア事務局が心がけたのは、アカデミック、デザイン、コレクター向けなどバラエティのある作品の提供です。今回は若手作家の発掘を目的に、出品作家のなかから35歳以下の国内外の優れたアーティスト5人を推薦、そのうち3人に「新賞奨（ONLINE ART Award）」を授与しました。他にもコロナ後のアートマーケット、新世代アーティストを中心とするコレクション

ンとNFTをテーマに、アートフォーラムを初開催しました。

我々はアートフェアのプラットフォームとしての役割に重点を置いて、より専門的なリファレンスを提供したいと考えています。アート関係者全てにとって、あらゆる面で充実することによってOATは発展していくと考えています。

—— これまでと比べて今回、なにか変化を感じましたか？

王 12年前に初めてホテル型アートフェアを台湾で開催し、OATは今回で4回目となります。ホテル型アートフェアは通常のアートフェアとは別の角度からアートマーケットの魅力を引き出せます。例えば、客室空間に合わせた小品が多く、価格も全体的に手頃で、来場者がリラックスした空間でアートを身近に感じることができます。

マーケットの変化により、昨年はストリートアートやグラフィティ、今年はNFTに注目が集まりました。今後も加速するマーケットに応じて、適切に専門的な情報を伝えたいと考えています。台湾のコレクターは日本のアートにとっても興味を持っているので、来年はより多くの日本の画廊に参加いただけることを期待しています。

—— これからOATはどのように発展していくと考えていますか？

王 私たちは売上だけでなく未来に向かって、アートマーケットとプラットフォームの発展を両立させてより多くのコレクターにOATの魅力を感じてほしいと思っています。今後も斬新なものになれるよう努力したいと思います。